

横須賀市地球温暖化対策地域協議会
平成30年度第3回理事会 議事要旨

- 1 日 時 平成30年10月25日（木） 10時00分～11時00分
- 2 会 場 ヴェルクよこすか 第8会議室
- 3 出席者 理 事 10名
(元木会長、高橋(正)副会長、木村理事、小嶋理事、榎本理事、
高橋(弘)理事、大野理事、内田理事、菅理事、田中理事)
事務局 3名
(松尾事務局長、春日事務局次長、菅野事務員)
- 4 会議内容
- (1) 開 会
事務局から本協議会規則第11条3項の規定により理事会が成立することを報告した。
- (2) 議 題
- ①議題1 平成30年度上半期事業報告について
- ・PT及び団体会員の事業以外の事業について、事務局から資料1-1及び資料1-2に沿って説明した。
 - ・各PTのリーダーが資料1-1に沿って説明した。
 - ・団体会員の事業について、各団体会員及び事務局が資料2に沿って説明した。
 - ・平成30年度上半期事業報告は承認された。
 - ・質疑応答は次のとおり。
- 【ぎふ減CO2ポイント制度について】
- (理 事) 「ぎふ減CO2ポイント制度」はいつから始まったのか？また、応募状況などを伺いたい。
- (事務局) 平成20年度からであり、毎年ポイント参加は約2,000件、応募は約1,000件で、そのうち、インターネットシステムでの応募は約170件とのことである。
- (理 事) 大変興味深く、とても有効な制度だと思う。今年7月に第1回目の応募が締め切られたと思うが、削減できた温室効果ガスの量は分かるか？
- (事務局) 岐阜市のデータによると、平成28年度の削減量は100tとなっているが、今年度の削減量はまだ把握できていないようである。
- (理 事) (啓発品が当たる抽選があるとのことだが) 抽選に外れた方には何も商品がないのか？
- (事務局) 小さなプランターなどを差し上げているとのことである。
- (理 事) 「よこすかエコポイント」よりも少し多い程度の事業費であり、当協議会での実施は困難ではないと思うが、これだけの事業を実施するには相当の人数が必要だと思う。予算や担当職員数の状況を伺いたい。事業費は約475万円とのことだが、その財源は何なのか？
- (事務局) 事業費約475万円の財源は、岐阜市からの負担金と協賛事業者からの協賛金（1件当たり1万円）である。協賛事業者は協賛金とは別に賞品を提供している。協賛事業者が提供する賞品以外の賞品は約475万円の中から購入している。また、担当職員は3名であるが、「ぎふ減CO2ポイント制度」だけでなく、岐阜市地球温暖化対策推進委員会が実施する啓発事業など他の事業も担当しているとのことである。
- (理 事) 事業者の相当な協力があることや事務が結構大変であることが分かった。
- (理 事) 「ぎふ減CO2ポイント制度」の応募手続きは難しそうであり、周知が課題であると感じた。

【京急電鉄の取組について】

- (理 事) 京急電鉄の電車車両の車内照明のLED化の進捗割合はどうなっているのか？
(理 事) 後ほど調べて回答する(※)。新造車両はLED化を進めており、更新車両についても更新のタイミングで随時LED化を進めている。
(理 事) 計画を立てて着実にLED化を推進していただきたい。

②議題2 平成30年度上半期予算執行状況について

- ・事務局から資料3を説明した。
- ・平成30年度上半期予算実行状況は、原案のとおり承認された。
- ・質疑応答は特になし。

③議題3 平成30年度下半期事業計画について

- ・下半期事業計画については当初の計画どおりの予定で変更がない旨を事務局から説明した。
- ・平成30年度下半期事業計画は、原案のとおり承認された。
- ・質疑応答は特になし。

(3) その他

①夏季節電チャレンジの抽選について

- ・10月15日まで募集していた当該事業について、20人の当選者を決定するために理事の方に抽選を行っていただきたい旨を事務局から説明した。
- ・抽選を行い、20人の当選者を決定した。

②FMブルー湘南への出演について(報告)

- ・今年度も横須賀エフエム放送株式会社代表取締役社長から、市域の温暖化対策の紹介や活動を内容とした番組への出演依頼があったため、市環境企画課で対応している。9月に協議会会長に出演いただいた旨を事務局から報告した。
- ・12月の地球温暖化防止月間では、副会長に出演をお願いしたいと考えている旨を事務局から報告した。

③次回の理事会の開催について

- ・次回の理事会では、「平成31年度の事業計画及び予算案について」を議題として、来年1月から2月での開催を予定している旨を事務局から説明した。

④その他

【旧再生可能エネルギー普及促進プロジェクトチームについて】

- (事務局) 前回の第2回理事会で議論いただき決定した再生可能エネルギー普及促進プロジェクトチームの廃止及びリーダーの退会については、第2回理事会後にリーダーあてにその旨の文書を送付した。その後、旧リーダーからは何の連絡もない状況であり、ご理解いただけたと思っている。

【横須賀市内における太陽光発電システムの普及状況について】

- (理 事) 市内では太陽光発電がかなり普及してきていると思うが、市内の太陽光発電の普及状況について把握しているか？
(事務局) 市内の太陽光発電の設置状況は全てを把握できていない。「よこすかエコポイント制度」で住宅用太陽光発電システム設置の際に申請があれば分かるが、設置者全てが申請しているのか分からない。申請があったものは発電量や温室効果ガス削減量を算出できるが、全体を把握できていない状況である。

- (理事) メガソーラーなど大規模になると環境アセスメントが必要になると思うが、そこまで大規模でなくても太陽光パネルが並んでいるものについては発電量を把握できるといい。
- (事務局) 「よこすかエコポイント制度」での住宅用太陽光発電システムの申請件数は減少傾向で、2～3年前の約半数になっている。原因としては、ある程度普及が進んだこと、また、固定価格買取制度（F I T）制度の買取期間の終了時期や売電価格の低下という状況の中で自家消費型に移行してきているのではないかと考えている。
- (理事) 国が設備認定をしていることから、国が把握していると思われる。なお、太陽光発電を設置された方は東京電力と売電契約をしているが、個人契約なので公表できない。F I T施行当初は再生可能エネルギーが普及していなかったため、国の政策として太陽光発電等で発電した電気の買取を進めることで太陽光発電等の普及を促進した。その結果、太陽光発電の普及が進み、買取価格が低下している。全体での契約数は横ばいであるが、横須賀市内の契約数については把握していない。

【(仮称)横須賀火力発電所新1・2号機建設計画について】

- (理事) (仮称)横須賀火力発電所新1・2号機建設計画について、前回の理事会以降の動向はどうなっているのか？
- (事務局) 年明けに事業者から環境影響評価書が示され、公告・縦覧の後、平成31年度中に建設工事着工、平成35年には稼働するとの見込みである。横須賀市では、今後、事業者と環境の保全に関する協定を締結していく予定である。
- (理事) 現在、撤去工事が行われていると聞いている。粉じんに関する懸念の声が多いようだが、密閉型コンベヤや屋内貯炭場など石炭が外に舞わない工夫をしているようである。発電出力については、以前は3号機から8号機で210万kWであったところ、新計画では1・2号機で130万kWということで、以前と比べて発電出力が低く、排出する温室効果ガスは相当少ないと聞いている。
- (事務局) 準備書では、温室効果ガス排出量は年間約726万tとなっていたが、これが全て横須賀市からの排出量として計算されるわけではなく、排出量は電気を消費した場所で計算されることになる。横須賀火力発電所が稼働するために消費する電気利用については横須賀市域での排出量の計算となる。
- (会長) 皆さんの関心の高いところなので共有できるものがあれば、また、情報提供をしていただきたい。

(4) 閉会

- ※ 閉会后、当該理事から京急電鉄の電車車両の車内照明のLED化の進捗割合は、本日現在で48.2%であるとの回答があり、事務局を通じて出席理事に報告した。